

# 函館市子ども会議 意見に対する答え

※みなさんからの意見を7つのまとまりにわけ、それぞれのまとまりごとに回答を作成しています。

※会議の際どのグループから出た意見かわかるように、それぞれの意見にカッコ書きでグループ名を表示しています。

## ～ものを大切に使うために～

【担当課】

環境部環境推進課

教育委員会生涯学習部文化財課

- 縄文時代の本を作ったり、今使っている物が全部なくなったらどうなるかという話をしたりして、物の大切さを伝えてほしい。（まが玉）

縄文時代の人びとは、食料となる生きものや自分たちが使った道具など、あらゆるものに魂たましいがあると考え、物を大切にし、感謝する気持ちをもっていたことから、物を粗末そまつに扱あつかうことはなかったようです。縄文時代には自分たちで食料をとったり道具を作ったりしていたので、その大切さを良く知っていたのでしょう。

一方で、現代の私たちは、食べ物をはじめあらゆる製品をお金で買うことができるため、つい粗末そまつにしがちで、地球の限りある資源を大量に使って、いろいろな製品を作ってきました。そして、その製品の多くはごみとして大量に捨てられ、焼却処理しょうきやくや埋立処分うめたてされてきました。

これから先も地球の資源を大量に採り、大量に使い、大量に捨てることを続けるとどうなるのでしょうか。

限りある資源は無くなり、自然環境かんきょうは破壊はかいされ、私たちの生活が不便になったり、生存そのものが危なくなったりすることにつながります。

そのような未来を防ぐために、まず、資源の大切さを伝える取組みとして、函館市では、函館市のごみの現状、処理の方法や分別の仕方、ごみを減らす方法などについて、市の職員がみなさんの学校や町会、サークルなどに実際に出向いてお話をする「出前講座かいさい」を開催しています。みなさんが、限りある資源を大切に使い、使い終わったらきちんと分別することで、ごみは資源となり、再利用されます。このような「使う・集める・再生する」という「リサイクルの輪」を作ることの大切さと、そのための知識・情報について、今後も出前講座などを通じてみなさんに伝えていきたいと思います。

また、現代の私たちがものを粗末そまつにしがちであっても、食事の前の「いただきます」や、食事のあとの「ごちそうさまでした」という言葉にみられるように、私たち日本人の心の中には、縄文時代からの物に対する感謝の気持ちが受け継がれているのだと思います。このような気持ちを持つことみりよくの大切さについて、縄文文化の魅力みりよくを多くの人に対して伝える取組みの中で、本やインターネットなどを通じ、これからも伝えていきたいと思います。

## ～まちをきれいにするために～

【担当課】  
環境部環境推進課

- 町の清掃のイベントを行ったり、山にごみを捨てる人への注意をしてもらい、町や山をきれいにしてほしい。(まが玉)
- ごみを道端や海に捨てないように、声かけをしたり看板などを作ったりしてほしい。(まが玉)

縄文遺跡が世界文化遺産に登録されると、これまで以上に多くの観光客が函館を訪れることが予想されます。それに伴い、ごみのポイ捨てなどが増えることが心配されますが、函館市では、きれいな街づくりのためにボランティア清掃をはじめ、さまざまな活動を行っています。

ボランティア清掃については、美しい町並みや景観を守るため、市の広報紙「市政はこたて」、環境部の広報紙「環境部ニュース」のほか、市のホームページやラジオ放送などで、市民のみなさんに参加を呼びかけています。これまで、地域の清掃活動に取り組む「春のクリーニンググリーン作戦」、「秋のクリーン作戦」、「函館港まつり翌朝清掃」のほか「大森浜海岸清掃」など、たくさんの市民のみなさんの協力により、まちの清掃活動が行われています。

また、このほかにも、きれいな街づくりのための活動については、環境美化とごみ減量などに取り組んでいる「函館の街をきれいにする市民運動協議会」と協力し、「ごみのポイ捨て防止キャンペーン」や「夏休みきれいな街づくり運動」、歩きながら啓発および清掃活動を行う「クリーン・ウォーキング大作戦」の実施を通じて、市民一人ひとりの環境美化に対するモラルやマナーがより良くなるよう呼びかけています。

今、世界では、ポイ捨てなどにより、たくさんのプラスチックごみが海に流れ込み、海を汚して、生き物にも悪影響を与えています。そこで函館市では、このプラスチックごみを減らすために市内の海岸に看板を設置したり、ポスターを作成して学校や会社などに配付しているほか、プラスチック製品の利用を控えることやポイ捨て防止を呼びかける「プラスチックごみ削減キャンペーン」なども実施しています。

函館市では、これからも、函館の街をきれいにするためのいろいろな取り組みを進めていきます。みなさんも、ごみのポイ捨てをしないで、ごみの持ち帰りやボランティア清掃への参加に協力してほしいと思います。

## ～縄文文化を知ってもらうために～

【担当課】

教育委員会生涯学習部文化財課

- インターネット配信やチラシなどを通してたくさんの人々に縄文の良さを広め、伝えることで、縄文土器や中空土偶・カックーなどの認知度を上げてほしい。(まが玉)
- 縄文についてもっと広報をしてもらいたい。(土笛)
- テレビや新聞などに縄文のことを載せてもらいたい。(土笛)
- 旗に書く、チラシを配布する等して縄文の良さを伝えてほしい。(土ぐう)
- イベントを増やして、みんなに縄文遺跡を知ってもらう。(土器)

函館市では、これまで市立博物館や縄文文化交流センターなどの博物館で縄文文化を紹介する展示会やさまざまな講座を開催しています。最近では「北海道・北東北の縄文遺跡群」をユネスコ世界文化遺産に登録するためにさまざまな取り組みをしています。

例えば、縄文のイベントや出張展示会、フォーラムやワークショップなども市内のいろいろな場所で開催していますし、市内では駅や空港、人が多く集まる施設などにポスターやパンフレットなどを置いてPRをしています。

また、市役所や南茅部支所、縄文文化交流センター、デパートなどの外壁や国道沿い、駅や空港のホールなどに大きな垂れ幕や横断幕を設置しているほか、市内各所に縄文遺跡群のロゴを付けた旗を設置しています。今後は関係する団体のみなさんと協力しながら、さらに市民のみなさんの目に触れるよう工夫していきたいと思います。

一方、最近ではテレビや新聞、本などで縄文の特集を取り上げることも増えてきましたが、さらに多くの方々に縄文の魅力を知っていただくための企画やイベントを展開するとともに、報道機関にもさらに多くの情報発信をしてもらえるようお願いしていきたいです。

## 縄文遺跡群ロゴマーク



このロゴマークは、北海道と北東北を表すとともに、縄文土器の形にもなっています。赤い色は縄文文化を代表する工芸品の「うるし」をイメージしています。そして世界遺産に向けて「Jomon」を世界の共通語としてアピールしていきます。

## ～縄文を体験してみたい～

【担当課】

教育委員会生涯学習部文化財課

- 縄文時代の体験などができるイベントを開いてもらいたい。(土笛)
- 子どもも興味を持ってもらえるように、縄文時代と同じような体験ができる施設を作る(展示しているものを見てタイムスリップするような施設)。(土笛)

縄文文化交流センターでは、縄文文化に関する土器づくりや勾玉づくりなどの講座を、いつでも体験することができます。また、センターや市立函館博物館では、夏休みや冬休みなどに小学生を対象にしたいろいろな講座を開催していますので、ホームページやチラシなどを確認して、ぜひ参加してみてください。

また、大船遺跡では年に1回、土器の野焼き体験を行っていますし、管理棟ではときどき、北の縄文クラブのみなさんが道具づくりなどの体験を行っていますので、こちらもホームページなどで確認して、参加してみたいかどうか。

そして、縄文文化交流センターの隣にある垣ノ島遺跡は令和3年6月末までの一般公開をめざして現在整備中ですが、土器の野焼きや発掘の疑似体験が行える体験広場をはじめ、さまざまなイベントに使える芝生広場も整備します。また、遺跡内にはクリの木をはじめ、縄文時代に利用されていた植物なども植えていく予定です。植樹体験をはじめ、実がなったときの収穫体験などもできるようになります。

そのほか、みなさんがやってみたい体験やイベントなどがありましたら、ぜひリクエストしてみてください。

## ～縄文文化を世界に広めるために～

【担当課】  
教育委員会生涯学習部文化財課

- 外国人にも縄文文化をもっと知ってもらいたいので、土偶のスタンプラリーをおいて、すべて押すことができればメダルをプレゼントする。  
(土笛)

外国の人びとにも、縄文土器や土偶をはじめ、縄文文化への理解や関心が少しずつ高まっていますし、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されれば、海外からも多くの見学者が来ることが予想されます。

しかしながら、縄文遺跡群は北海道から青森県、秋田県、岩手県と広大な範囲にある17の遺跡で構成しているため、日本人にとっても一度に全てをまわることは難しいかもしれませんが、全てをまわったら記念品をプレゼントするのは面白いアイデアだと思いますので、外国の人だけではなく日本人も含めた見学者を対象にしたスタンプラリーができないか、関係者に提案してみたいと思います。

## ～縄文文化交流センターを知ってもらうために～

【担当課】教育委員会生涯学習部文化財課

- 縄文文化交流センターが単なる道の駅だと思われるので、もっと目立つ看板を立ててほしい。(土ぐう)
- わかりやすく、たくさんの人が交流できるようにする。(土ぐう)
- 着ぐるみを縄文文化交流センターの外に立たせ、車に乗っている人にもセンターの存在がわかるようにしてほしい。(土ぐう)

縄文文化交流センターは、現代の空間であるバイパスと縄文時代の空間である垣ノ島遺跡を分ける境目としての壁<sup>かべ</sup>の役割を果たす独特なデザインとなっているため、あまり目立たない外観ですが、平成28年には北海道公共建築賞優秀賞を受賞しています。いっぽう周囲の景観（景色）との調和を損なわないように、あまり大きく目立つ看板は設置していません。

しかしながら、利用者のみなさんからも同様の意見がありますので、今後わかりやすい工夫を考えていきたいと思えます。

それから着ぐるみについては、縄文まつりなどのイベントで借りて使うことはありますが、中に入っている人は大変な重労働でいつも立っているのはとても難しいことです。まずは着ぐるみの製作やさまざまな機会に少しでも多く使えるように考えていきたいと思えます。



## ～わたしたちの生活のために～

【担当課】

南茅部支所地域振興課

- 縄文遺跡群が世界遺産に登録されたら、私たちの生活に影響えいきょうがあると思うので、そういった影響えいきょうを少しでも減らして欲しい。(土器)

世界遺産に登録されると、市民のみなさんに世界遺産のある町という誇りほこりが生まれるほか、地域を訪れる人が増えることで、宿泊しゆくはくや食事などをする人も増えることが予想され、地域の活性化にもつながるなど、良い影響えいきょうをもたらすことが考えられます。

一方で、たくさんの方が訪れることで交通量が増え、事故やごみのポイ捨てなども増えることが心配されます。

函館市では、こうした問題が地域のみなさんの生活の支障とならないよう、警察や道路の管理者などと協力して、運転マナーを守るよう呼びかけをしたり、地域のみなさんにもご協力いただいたりしながら、ボランティア清掃せいそうなどにこれまで以上に取り組み、お互いにとつてよい環境かんきょうを保ちながら、縄文遺跡を保存・活用していきたいと考えています。



HAKODATE